

ワークショップ結果の分析に基づく熊本市南区6地区の地域特性の考察

熊本大学 学生会員○亀井啓吾 熊本大学 正会員 田中尚人

1. はじめに

日本が抱える問題として少子高齢化，核家族化，都市部への人口流出などが挙げられる。それらにより地方の活力が失われてきているため，全国的に地方では地域を再生・活性化させるべくまちづくりが行われている。まちづくりは地域特性に沿って行われることが望ましいが，地域特性を明らかにすることは簡単ではない。そこで本研究は南区のまちづくりを子どもと一緒に考えるワークショップ(以下WS)の分析結果に基づき，熊本市南区の6地区(図-1)の地域特性を明らかにする方法を提示することを目的とする。

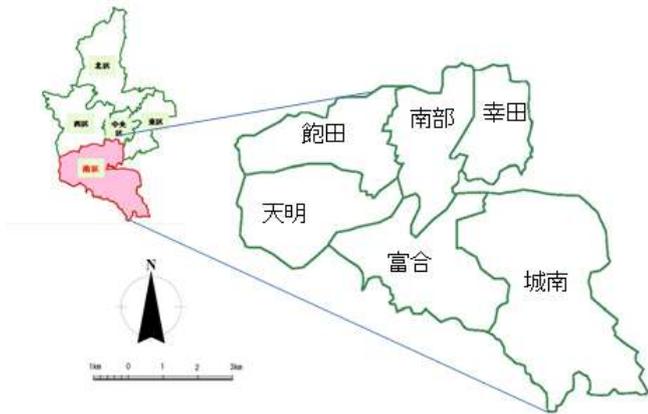


図-1 熊本市南区6地区

2. まちづくりアンケートにみる地域特性の分析

(1) アンケートの概要

2章では，南区6地区の地域特性を読み解くために，意識の変化と現在の意識を明らかにする。2012年に「南区振興ビジョン区民アンケート」，2015年に「南区のまちづくり区民アンケート」(表-1)を行い，幅広く熊本市南区民のまちづくりの意見を把握した。そこで，2つのアンケートの共通の問いについて集計・分析した。地区別の分析をすることで，6地区の地域特性を読み解く。共通の問いは，南区の特徴や魅力/南区の課題/南区の将来像/現在住んでいる場所は住みやすいか/これからも住み続けたいか/南区のたからものは何か/地域の活動で，今参加しているもの/今後どのような活動に参加しようと

思うか/南区についての問いであり，これらについてクロス集計を行った。

(2) アンケートの比較分析結果

分析する観点には，継続居住意向，今後の地域活動への参加意向など，地域住民の意識に着目する。比較した問の一例を挙げる。図-2は「今住んでいる場所にこれからも住み続けたいか」の問の結果である。ほとんどの地区では(1)ぜひ住み続けたい(2)できれば住み続けたい，の割合が減少している。しかし，天明地区はその二つの割合が増加している。熊本市は2012(平成24)年に政令指定都市に移行した経緯があり，天明地区には何らかの影響がでているのではないかと考えられる。

表-1 アンケート概要

	南区振興ビジョン 区民アンケート(2012)	「南区のまちづくり」区民アンケート(2015)
目的	区民意見を反映させた「南区振興ビジョン」を策定するため、その基礎資料として、南区民が感じている南区の魅力や課題等について調査を行うもの	「南区まちづくりビジョン」の実現に向けて、幅広く南区民の意見を把握し、今後のまちづくりに反映させるため、南区民が感じている南区の魅力や課題等について調査を行うもの
調査方法	郵送法	郵送法
調査時期	平成24年5月23日から 平成24年6月8日まで	平成27年6月3日から 平成27年6月17日まで
調査対象	満20歳以上の 南区民 3000人	満20歳以上の 南区民 3000人
有効回収数	1020件(回答率:34.0%)	960件(回答率:32.0%)

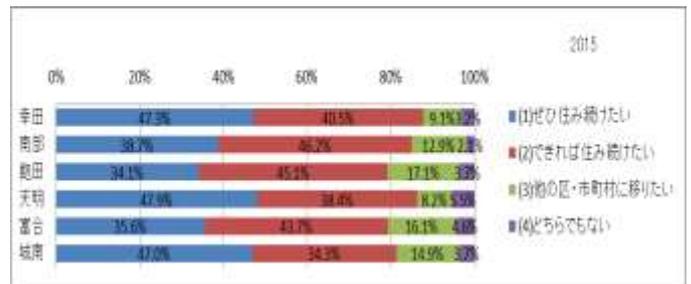
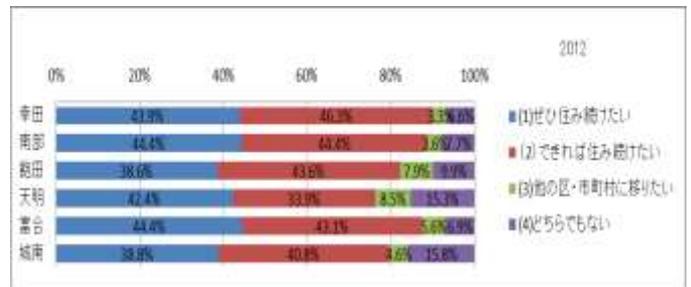


図-2 継続居住意向の結果

3. 南区まちづくりWSにみる地域特性の分析

(1) 南区まちづくりWSの概要

3章では6地区の地域特性を読み解くため、南区区内にて7回行ったWS（表-2）（表-3）を分析した。第1部ではワールドカフェ形式のWSにより「あなたが住んでいる中学校区のまちづくりの〇と×」というテーマで参加者に話し合ってもらった。第2部では2つのふりかえりシートを用意した。(a) 個人のふりかえりシートでは、主に「自校区のまちづくりのいいところ」について考えてもらった。(b) グループのふりかえりシートでは、「自校区のまちづくりのよくないところ」と「それを改善するためのアイデア」について考えてもらった。

(2) 地域の魅力に関する分析結果

(図-3) はWSのワールドカフェ形式で出された意見を南区が掲げる「南区まちづくりビジョン」の基本目標別にカテゴリー分けし、数を集計した結果のグラフである。飽田と天明はともに海に面してお

表-2 南区の子どもと一緒に考えるWS

目的	「南区まちづくりビジョン」の実現に向けて、幅広く南区民のご意見を把握し、今後のまちづくりに反映させるため、南区の将来を担う小・中学生とその保護者を対象にした「南区のまちづくりを子どもと一緒に考えるワークショップ」を開催し、南区のまちづくりの現状や課題等について意見を聴取するもの
対象者	・南区在住の小学3～6年生・中学生とその保護者 ・南区のまちづくりに興味がある方
実施方法	南区の各中学校区（飽田・天明・城南・日吉・力合・託麻・富合・下益城城南）において、ワークショップを開催
内容	第1部ワールドカフェワークショップ 「私たちが住んでいる中学校のまちづくりの〇と×」 第2部ふりかえり ・ふりかえりアンケートの記入 ・まとめ「×を〇にするためには」

表-3 WS概要

校区	実施場所	実施日時	未就学児	小学生	中学生	保護者	大人	学生	合計
飽田中学	飽田公民館ホール	2015/8/2午後2時～午後3時30分	0	11	1	11	1	4	28
天明中学	天明公民館会議室	2015/9/27午前10～午前11時30分	1	1	3	3	4	4	16
日吉・城南中学	南部公民館ホール	2015/8/30午前10時～午後11時30分	0	8	1	7	4	4	24
託麻中学	幸田公民館ホール	2015/8/9午前10時～午前11時30分	0	8	5	12	1	4	30
富合中学	富合公民館研修室	2015/8/22午後2時～午後3時30分	0	5	5	9	1	4	24
下益城城南中学	城南公民館学習室	2015/8/23午後2時～午後3時30分	0	5	3	8	0	4	20
力合中学	南部公民館ホール	2015/8/9午後3時～午後4時30分	0	0	25	1	3	4	33

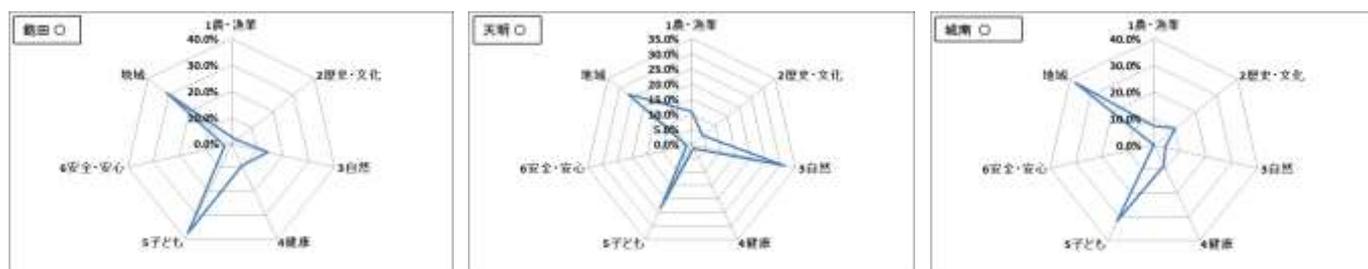


図-3 南区WS結果

り、農業が盛んである地区という共通点があるが、グラフの形は明らかに違うことが分かる。しかし離れた地区の城南は飽田と似たグラフの形であり、地域住民の意識が近いことが分かった。このように自然環境や歴史が違って、地域住民の気質という地域特性が似通っている場合もあった。

4. 南区6地区の地域特性

4章では2・3章で分析したデータを用いて6地区の地域特性を明らかにする。また、それら2つを比較し、アンケートで得られた結果と、WSで得られた結果の関係性について考察する。

5. おわりに

熊本市南区の地域住民の方々のまちづくりに対する考えや意見から南区の地域特性の一端を明らかにすることができた。これまでは立地条件や歴史から地域特性を読み解くことはあったが地域住民の意識から読み解くことは少なかったと考えている。

[参考文献] 1) 平山文則, 趙世晨: 地域コミュニティ施設計画・設計におけるワークショップ手法に関する研究, 日本建築学会技術報告集, 第20巻, 第46号, 1079-1084, 2014年10月 2) 渡辺沙織, 樋口忠彦: 公園づくりにおける住民参加型ワークショップの実態調査とその評価に関する研究, 日本建築学会北陸支部研究報告集, 第43号, 337-340頁, 2000 3) 長曾我部まどか, 榎原弘之: ワークショップにおける相互補完的対話の分析, 都市計画論文集, Vol. 50, No. 1, 2015年4月